

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	依存症対策支援事業費	シート番号	11-269
担当部署名	健康福祉 局 健康 部 ころの健康センター 課	評価責任者(課長名)	永井

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け	
			施策	1	市民の命を守る健康・医療体制の強化	無	
	2	事業開始年度	平成 30 年度		終了(予定)年度	— 年度	
	3	根拠法令等 (法令、条例、規則、要綱等)	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第六条(精神保健福祉センターの設置)				
	4	関連計画					
5	事業実施の経緯	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第6条(精神保健福祉センターの設置)に基づき、市民に対して精神保健及び精神障害者の福祉に関する知識の普及、調査研究、相談・指導(複雑又は困難なもの)、市内関係機関に対し技術的事項についての協力その他必要な援助を実施している。 なお、薬物依存症に関する相談等については従来から実施しており、ころの健康センター地域支援事業費から予算執行していたが、平成30年度からの新規事業であるギャンブル等依存症相談と合わせて、当事業から執行することとなった。					

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体 (誰が実施しているのか。)	<input type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input checked="" type="checkbox"/> 出先機関 (ころの健康センター) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象 (誰を、何を対象としているのか)	依存症をもつ市民、依存症領域におけるメンタルヘルスの増進が必要な市民、依存症支援に係る業務に従事する庁内外の職員、依存症者の当事者会・家族会等市民活動団体など。			
	8	事業の目的 (どのような状況にしたいのか)	依存症に関する知識の普及啓発により、市民の依存症領域におけるメンタルヘルスの増進をめざす。精神保健及び精神障害者の福祉に関する相談・指導について複雑又は困難なものとして依存症者への支援を行い、依存症に関わる業務を行う関係機関に対する技術的事項についての協力その他必要な援助を行うことにより、依存症者や依存症者の家族等の福祉の向上を図る。			
	9	事業内容 (スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	①専門相談事業: 精神保健福祉法第6条で定められた、精神保健福祉相談のうち複雑又は困難なものとして、「薬物依存」「ギャンブル等依存」に関する相談を行う。 ②教育研修事業: 精神保健福祉に関する業務を行う関係機関職員向けの研修を開催する。 ③普及啓発事業: 各種啓発冊子等の作成、市民講演会の開催、市民協働による啓発イベントの企画等を行う。 ④地域関係機関への技術支援: 所管外の精神保健福祉に関する事業からの要請に応じ、また、各相談窓口の個別相談事例に対する助言、指導等を行う。 ⑤組織育成事業: 家族会、当事者会等への技術的支援を行う。 ⑥調査研究事業: 研究紀要の作成等を行う。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				

Ⅲ. 投入量

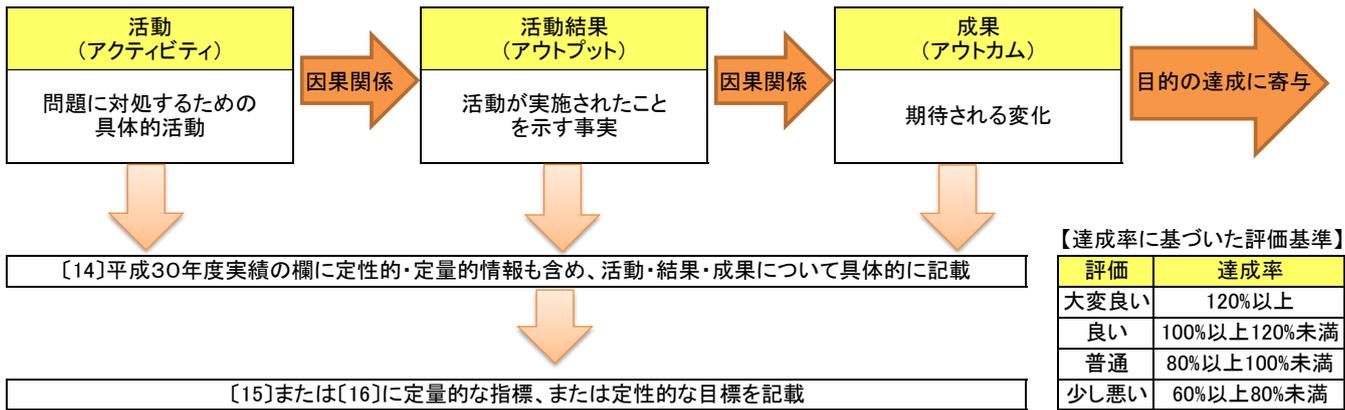
	項 目	単 位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業コスト	11 事業費 (a)	千円	0	0	2,029	2,244	
	主な事業費内訳	報酬	千円			532	672
		報償費	千円			346	432
		旅費	千円			515	546
		需用費	千円			487	352
	財源内訳	国・府支出金	千円			1,146	1,005
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
		市債	千円				
		その他()	千円				
		一般財源	千円			883	1,239
12	人件費 (b)	千円	0	0	16,400	16,200	
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	0	0	18,429	18,444	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	依存症対策支援事業費	シート番号	11-269
-------	------------	-------	--------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	○薬物依存症 1) 相談支援及びグループワーク等 ・覚せい剤、麻薬等の違法薬物や危険ドラッグ等の依存の問題で困っている本人及び家族等に対して相談支援を行った。個別の状況に応じた支援及び精神科医による相談(月1回程度)を実施した。(延べ585件) ・薬物依存症で困っている家族を対象に、薬物問題の正しい理解とその対応について学ぶことを目的とした家族教室を実施した。(10回 延べ51人) ・薬物依存症相談の利用者を対象に、再発予防を目的としたグループワークを実施した。(24回 延べ69人)						
		○ギャンブル等依存症 1) 相談支援及び回復プログラム等 ・くり返される賭博により生活に支障が生じ、ギャンブル等依存の問題で困っている本人及び家族等に対して相談支援を行った。個別の状況に応じた支援及び精神科医による相談(月1回程度)を実施した。(延べ388件) ・ギャンブル等依存症相談を利用している家族を対象に、ギャンブル等依存症の正しい理解とその対応について学ぶことを目的とした家族教室を実施した。(4回 延べ32人) ・同じ悩みを抱える家族同士の交流の場としての家族交流会を実施した。(2回 延べ11人) ・ギャンブル等依存症相談の利用者を対象に、再発予防を目的とした回復プログラムを実施した。(9回 延べ27人)						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		専門相談(依存症)、教育研修、技術支援、普及啓発など各事業の実施回数	回	目標値	—	—	300	1,000
				実績値	—	—	1,034	
				達成率	—	—	345%	
	評価			—	—	大変良い		
	算出方法・設定根拠など		相談実施日、教育研修、技術支援及び関係機関との調整会議など各事業の実施回数の合計					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		専門相談(依存症)、教育研修、技術支援、普及啓発など各事業の利用者数	人	目標値	—	—	500	500
				実績値	—	—	449	
				達成率	—	—	90%	
	評価			—	—	普通		
	算出方法・設定根拠など		相談件数、教育研修、技術支援及び関係機関との調整会議など各事業の利用者数の合計					

業績の分析

17	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
	専門相談、教育研修、技術支援、普及啓発など各事業の実施回数について、目標値を達成できたのは、専門機関としての役割を果たすため職員の技術向上の取組(所内研修の実施や外部研修受講等の研鑽)を積極的に実施した結果、職員のスキルが向上し効率的に業務を遂行できたためと考える。 専門相談、教育研修、技術支援、普及啓発など各事業の利用者数について、おおむね目標数値を達成できたのは、市民や関係機関のニーズを正しく把握し、必要なサービスを提供できたためと考えられる。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。